



公益社団法人 埼玉県看護協会

さいたま

Nursing



緑むすび風鈴 (提供:川越氷川神社)

No. **132** 2022.7.28

特集 ともに、つくる、「看護」

2年目と先輩の手術室看護師が伝える **周術期看護の魅力** 6~7

- ごあいさつ 2
- 令和4年度通常総会 3
- 令和4年度埼玉県看護協会会長表彰受賞者 3
- 常務理事ごあいさつ 4
- 支部長ごあいさつ 5
- 2022年度「看護の日」イベントレポート／お知らせ 8

会員数 **23,919**名 (2022.05.31 現在)

保健師

374名

助産師

907名

看護師

22,102名

准看護師

536名

埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>



ごあいさつ



公益社団法人埼玉県看護協会
会 長
松田 久美子

会員の皆さまには、日ごろから埼玉県看護協会の運営、事業推進にご支援いただき感謝申し上げます。

昨年度は、COVID-19の収束が見通せず、ワクチン接種と変異株対応に明け暮れた一年でした。ウィズコロナを探る活動を日々続けられる看護職の皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

令和4年度通常総会は、会員の出席を事前申し込み制として3年ぶりに来賓の方をお招きして行いました。埼玉県看護協会会長表彰にも17名の方が任意で出席くださいました。COVID-19

以前と同様の規模での開催はかないませんでした。来賓の方々からは、コロナ禍の看護職の活躍に賞賛と励ましの言葉を賜りました。

さて、今年度の事業については、理事会の承認のもと始動しております。継続教育においては、研修のねらいに合わせてオンライン・対面研修を実施しております。認定看護管理者教育3課程、実習指導者講習会なども例年どおりに開講いたします。感染対策を講じておりますので、安心して研修・学会等にご参加ください。

今年度の重点事業でもある支部再編は、令和5年4月の新体制スタートに向けて2年にわたり準備に取り組んでおります。3つの研修センターの処遇についても、通常総会で報告した手続きに則り課題解決に取り組んでまいります。

役職員一同、心一つに看護協会の役割を果たしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



副会長
柿澤 由紀子

深谷赤十字病院
看護部長

COVID-19が発生し、2年が過ぎた今でも変異を繰り返し、世界では未だ収束しない中、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が続いています。国内ではさらに少子高齢化が進展し、団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年が目前に迫っております。その先の2040年を見据えて、看護に対する期待はますます高まっています。県民の健康な生活の実現に貢献するために、看護の質向上、看護職が働き続けられる環境づくり、地域の人々のニーズに応える看護の展開といった3つの使命に基づいた看護協会の活動に尽力していきます。よろしくお願いいたします。



副会長
須田 裕子（新任）

埼玉医科大学国際医療センター
副院長 看護部長

年々少子高齢化社会が進行し、2040年には社会状況の様々な問題も深刻化すると言われております。支え手の減少や看護師不足の問題もさらに深刻になることが予測されることから、今迄以上に、看護職員が健康で働き続けることができる職場環境づくりを推進する必要性を感じております。

そして、今こそ看護職が力を合わせ、看護の専門性を発揮するとともに、看護職の確保対策に取り組む時であると考えております。

埼玉県看護協会の役割や活動を理解し、副会長としての役割が果たせるよう尽力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 通常総会

◎令和4年度執行部体制

会 長	松田久美子
副 会 長	柿澤由紀子 須田 裕子 新
専務理事	澤登 智子
常務理事	各務 初恵 佐藤 啓子 吉永 智子 新 井出志賀子 新
職能理事	田邊奈緒子(保) 谷島 春江(助) 細谷 美穂(看Ⅰ) 林 晴美(看Ⅱ)
地区理事	小川裕美子 金澤千恵子 三原 加奈 新
准看護師理事	川端 澄枝 新
監 事	齋藤 栄子 阿部 大輔 斉藤 靖枝 新

埼玉県看護協会は、6月18日に令和4年度通常総会を開催いたしました。今年度は、感染防止対策を徹底しながら、会員のみなさまにも事前申込制でご出席いただき、来賓の方もお招きしての開催となりました。議事は滞りなく進行され、各議案とも原案どおり可決されました。

◎出席者111名、委任状16,307通(定足数11,808名)

- 報告事項1** 令和3年度事業報告
議決事項 第一号議案 令和3年度決算報告及び監査報告
報告事項2 令和4年度重点事業及び事業計画
報告事項3 令和4年度収支予算
報告事項4 研修センターあり方の方針
議決事項 第二号議案 名誉会員の推薦
議決事項 第三号議案
- 令和4年度改選役員及び推薦委員の選任について
 - 令和5年度日本看護協会通常総会代議員及び予備代議員の選任について



名誉会員 向田良子様

令和4年度 埼玉県看護協会長表彰受賞者

埼玉県看護協会会員として20年以上在籍し、協会業務の向上・発展に功績のあった25名の方が埼玉県看護協会長表彰を受けられました。おめでとうございます。

氏 名	所 属
高橋 陽子	埼玉県立循環器・呼吸器病センター
宮内 文子	埼玉県立高等看護学院
内村 常子	埼玉医科大学病院
関 由美子	埼玉医科大学国際医療センター
島田 雅子	埼玉医科大学国際医療センター
村上 洋子	武蔵嵐山病院
菊地あゆみ	埼玉医科大学総合医療センター
塩見 政枝	赤心堂病院
本間 真紀	埼玉医科大学総合医療センター
細田 和代	大生病院
吉村 紀代	所沢ロイヤル病院
佐川みゆき	埼玉県立がんセンター
長澤 一雄	こうのす共生病院
石井 素子	さいたま市立病院
城戸 秀美	埼玉精神神経センター
戸鹿里文子	埼玉メディカルセンター
中島 悦子	アトリオ訪問看護ステーション

氏 名	所 属
今村 理恵	戸田中央医科グループ TMG本部看護局
須田登志江	埼玉協同病院
的場 裕子	戸田中央産院
岡安 順子	秋谷病院
今井 孝子	埼玉県済生会栗橋病院
篠崎名保美	獨協医科大学埼玉医療センター
渋谷えり子	埼玉県立大学
吉川 純子	草加市立病院



表彰者



専務理事 澤登 智子

私たちは未曾有のコロナウイルス感染拡大を経験し、看護活動の中で身近な地域単位の看護職の連携の大切さに改めて気づきました。また多職種連携は地域包括ケア推進の要でもあります。看護協会として地域の看護職連携を推進するために、顔の見える関係づくりを基本として支部とも協力して取り組んでいきたいと思ひます。今後、会員の皆様が看護協会に集い、情報交換や学ぶ機会を増やしていただけるよう環境整備も続けてまいります。



常務理事 各務 初恵

- 協会立訪問看護ステーション
- 災害看護対策事業

集中豪雨による大規模災害が毎年のように起き、関東では大地震が危惧されており、災害支援ナースの活動への期待は高まっています。また、各施設の災害に対する平時からの備えにも、災害支援ナースの役割が期待されています。今後の活動を視野に入れ災害支援ナースの育成に努めてまいります。

埼玉県看護協会立訪問看護ステーション7ヶ所がそれぞれの特徴を活かし、地域に求められる訪問看護ステーションとして活動できるよう支援してまいります。



常務理事 佐藤 啓子

- 埼玉県ナースセンター
- 働きやすい職場づくり支援事業
- 届出制度活用促進事業
- 新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業

ナースセンターでは、今年度も、感染状況を注視しつつ、感染拡大時に対応可能な新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業(派遣調整、研修、相談)をすすめてまいります。

また、看護職確保対策の柱である届出制度(平成27年10月施行)の周知事業を重点的に行っております。対象となる看護職の皆様に登録をお願いすると共に、ナースセンターの主な事業である無料職業紹介、相談事業をご活用いただけるよう取り組んでまいります。



常務理事 吉永 智子

- 継続教育
- 埼玉看護研究学会
- 認定看護師の資格取得・派遣事業

研修情報管理システム(マナブル)を導入し1年経過しました。まだまだスムーズにいかない場合もありますが、会員の皆さまの自己研鑽にお役に立てていると思ひます。

認定看護師資格取得への支援は、認定看護師への期待が高まっている現れです。また派遣事業では病院のみならず、介護施設へも派遣しております。毎年好評を得ています。

看護研究学会では、成果発表の機会として多くの看護職の参加をお待ちしています。このように今後も必要に応じた研修の企画運営に取り組みます。



常務理事 井出 志賀子

- 認定看護管理者教育
- 埼玉地域看護研修センターの管理・運営
- 医療安全大会
- 助産師出向支援導入事業

新たに常務理事に就任いたしました。COVID-19の収束が見えない中ですが、今までの40年間の臨床経験を活かし、国や埼玉県の現状を把握しながら情報を集め、時代に即した人材育成・看護管理者教育に取り組むとともに、活力あふれる現場へと看護の質の向上に努めてまいります。また、助産師出向支援導入事業に携わりながら地域連携を大切に、看護職の皆様の声を聴かせていただき、元気に生き生きと就業できる環境整備に取り組んでまいります。

第1支部

柿間 真由美 〈埼玉よりい病院〉



今年度で2年目、支部長を務めさせていただきます。平素より会員の皆様には、支部活動にご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年度より支部活動の範囲を少しずつ拡大していますが、以前のような活動ができないこと、本当に残念でなりません。役員一同できることを模索しながら、支部活動を拡充させ、更なる支部の連携強化を図ってまいります。皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

第2支部

山崎みつ江 〈小川赤十字病院〉



今年度より第2支部支部長を務めさせていただきます。会員の皆様には、日頃から第2支部の活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。アフターコロナ、支部編成等、今年度から来年度にかけ、大きな変化の時期を迎える中での大役に緊張しております。この大役を第2支部役員の仲間と会員の皆様のお力をお借りして、無事にこの変化に対応していけるよう尽力いたしますので、宜しくお願いいたします。

昨年は感染を考慮しオンラインでの配信講演会を行いました。今年度も、感染対策に万全を期し支部活動が進められるよう、会員の皆様に貢献できる活動に取り組んでいきます。また、今年度は支部再編の活動を考える重要な年でもあります。今後ともご理解・ご協力よろしくお願い致します。

第3支部

筒井 美帆 〈武蔵野総合病院〉



昨年に引き続き支部長を務めさせていただきます。平素より会員の皆様には支部活動にご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年は感染を考慮しオンラインでの配信講演会を行いました。今年度も、感染対策に万全を期し支部活動が進められるよう、会員の皆様に貢献できる活動に取り組んでいきます。

また、今年度は支部再編の活動を考える重要な年でもあります。今後ともご理解・ご協力よろしくお願い致します。

第4支部

福本 清高 〈大生病院〉



2022年度第4支部支部長を拝命いたしました。支部活動は今年度で3年目になります。役員としての2年間は新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りの活動が行えず、あらゆる活動が縮小や中止を余儀なくされました。これからも「例年通りに」とはいかない環境ですが、そういった逆境をチャンスとして「新たな試みを行う機会」に変えて支部活動を行ってきたいと考えています。今後ともご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

2022年度第4支部支部長を拝命いたしました。支部活動は今年度で3年目になります。役員としての2年間は新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りの活動が行えず、あらゆる活動が縮小や中止を余儀なくされました。これからも「例年通りに」とはいかない環境ですが、そういった逆境をチャンスとして「新たな試みを行う機会」に変えて支部活動を行ってきたいと考えています。今後ともご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

第5支部

長澤 明子 〈上尾中央看護専門学校〉



第5支部会員の皆様、日頃より支部活動にご協力を賜り深く感謝申し上げます。変異し蔓延する新型コロナウイルス感染症の状況に、医療・看護へのニーズが高まり、看護職の役割は確実に広がっております。最前線で尽力されている皆様にお礼申し上げます。

今年度は、地域包括ケア体制の推進を考え、支部内での会員の交流を図れるような、研修会や支部だよりの企画をいたします。引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

第6支部

佐山 順子 〈彩の国東大宮メディカルセンター〉



ここ数年はコロナ禍ということで活発な支部活動ができませんでした。これからは感染状況を見つづつ活動を広げていければと考えております。

今年度は、会員の皆さま向けにオンライン配信にて主に2つの活動を予定しております。1つ目は教育をテーマにセミナーを1回、11月以降には看護研究・成果発表会を予定しております。少しでも会員の皆様のお役に立てれば幸いです。今年度も、どうぞよろしくお願い致します。

第7支部

岡田 美智子 〈埼玉協同病院〉



第7支部の会員の皆様には日頃より支部活動にご協力、ご理解いただきありがとうございます。

COVID-19によって支部活動は2年に渡り、様々な行事が中止となりました。2022年5月には厚生労働省からCOVID-19を想定した「新しい生活様式」が提言されました。支部活動において感染対策に十分留意しながら会員の皆様に貢献したいと考えております。今後も支部活動へのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

第8支部

藤城 厚子 〈蓮田病院〉



今年度も昨年に引き続き、支部長の任を継続させていただきます。

昨年は、コロナ禍において、会議や研修会をオンライン開催することにより、予想以上の会員の参加が可能となりました。また、役員の移動時間や会場費用の節約などの大きなメリットもありました。令和5年度の支部再編での新体制を迎えるにあたり、隣接地域の看護管理者様・会員様のご理解ご協力を募って参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

第9支部

加藤 好江 〈みさと健和病院〉



常日頃より第9支部への活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

続いているコロナ禍の中で、支部としての活動を少しずつ始めた2021年度でした。今年もまた会員交流会や研究発表会を行う準備を始めております。さらに令和5年度に予定されている支部再編後の新たな出発に向けても取り組んでいきます。これからも支部活動へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

新久喜総合病院

病床数391床（他コロナ病棟8床）手術室7室 手術室看護師数28名
「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を理念に、「24時間365日断らない病院」として地域に根差した質の高い高度な医療の

提供に努めている。手術看護認定看護師を中心に、心臓外科・脳外科等年間約3,600件の手術を行っている。ハイブリッド手術室の稼働、ダヴィンチ手術開始、今後TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）を導入予定である。



2年目と先輩の手術 周術期看護

看護の場が多様化する中、会員の皆様から「様々な看護師の活躍の場を紹介してほしい」というご要望がよせられています。今回は手術室にスポットを当て、周術期看護に携わる2年目と先輩の手術室看護師にお話をうかがいました。

木村 春香 さん

2年目看護師



Q. 現在どんなことに取り組んでいますか。

A. 脳神経外科や脊椎外科など、新しい科の器械出しを覚えて手術に備えています。外回りでは、全身麻酔下にある患者様の状態を観察し、安全安楽な体位を考え、適切な看護ができるように日々知識や技術を学んでいます。

Q. 周術期看護の魅力はなんですか。

A. 手術を担当する医師、麻酔科医、臨床工学技士、診療放射線技師など、多くの職種と連携し、患者様のために同じ方向を向いて協力しながら手術をしていくことです。特に緊急手術が無事終了したときは、皆が安心感から自然と笑顔になり、チームワークの深まりを感じます。

Q. 先輩からの指導で大切にしていることを教えてください。

A. 入職当初、自分のやっていることは看護なのか、患者様のためになっているのか、悩んだことがありました。その時、「器械出しも手術の進行を予測して、アセスメントしながら実践すれば、それは看護だ」と指導していただきました。それから、術野の清潔を保ち、予測し、手術時間が短縮できるように意識しながら器械出しをしています。最初は予測して準備をすることが難しかったですが、今は必要な器械を手にして、起こり得るリスクに対してスタンバイできるようになったと感じます。

Q. これからの抱負を教えてください。

A. 術前術後のかかわりを通し、周術期にある患者様一人ひとりと向かい合い看護をしていきたいと考えています。

中西 唯 さん

先輩看護師

Q. 周術期看護の魅力はなんですか。

A. 手術室業務は専門性の高い領域であり、なかでも一番の魅力はチーム医療です。患者様がより安全に、よりスムーズに周術期を過ごせるように、看護師という自分の役割を捉えチーム医療に参加できることに魅力を感じます。

Q. 工夫していることを教えてください。

A. 多職種とかかわるため、考え方や意見が合わない場面も多いです。私はできるだけ相手の意見を聞くことと同時に、自分の意見を伝えるように意識しています。そうすることで、より良い方向に進めると思います。

Q. 後輩との関わりで印象的なことはありますか。

A. 仕事がフォローなしでできるようになったり、自主的に動く姿を見たり、患者様と積極的にかかわる姿を見るととても嬉しいです。後輩の成長は自分のこと以上に嬉しいので、自分の想いが強くなり過ぎないように注意しています。

Q. 周術期看護に携わる看護師に向けたメッセージをお願いします。

A. 周術期看護の魅力はチーム医療ですが、多職種の調整役として苦労する場面も多いです。全国の周術期看護に携わる方々と、力を合わせて盛り上げていきたいです。



松江 亮子 さん

看護師長

手術室看護師になると、目の前にある仕事一つひとつに向き合い、乗り越えていくことの連続です。素直さをもって、日々継続することが大事だと感じています。ぜひ一緒に成長していきましょう。

室看護師が伝える 護の魅力

春日部市立医療センター

病床数363床 手術室6室 手術室スタッフ22名

地域がん診療拠点病院である。二次救急医療機関で周産期医療にも対応して24時間手術を受け入れている。年間手術件数は3000件を超えていたが、COVID-19の影響で昨年度は減少した。多くの領域の手術を行い、腹腔鏡・胸腔鏡・ロボット支援下手術をメインに様々な術式に対応している。



本田 愛里 さん

先輩看護師

Q. 周術期看護のやりがいや工夫していることはなんですか。

A. 術前訪問で患者様から情報収集・アセスメントを行い、術前・術中・術後を通して個別性のある看護を行っています。安全にかつ円滑に手術が終了した時に「今日も安全に終わった」とやりがいを感じます。COVID-19感染症患者の緊急手術では、師長を中心に何度もシミュレーションを実施し話し合い、新しい情報をもとにマニュアルの修正を行っています。医師、他職種を含め、手術にかかわるスタッフ全体で共有したいことは写真で掲示し、周知するようにしました。

Q. 後輩の指導で工夫していることを教えてください。

A. 手術室というと、術式・器械・手術の流れなどに注目しがちですが、まずは患者様に目を向けるように伝えています。患者様から発信されるすべての情報から予測して行動する必要があるため、手術や麻酔の体位は実際に体験し、器械や医療機器は事前に触れて練習しています。手術後は必ず振り返りを行います。

Q. 周術期看護に携わる看護師に向けたメッセージをお願いします。

A. COVID-19の影響で自分の思う看護ができず、手術件数が急激に減ったときは病棟に応援に行くこともあります。辛いと思うこともありますが、これまでと変わらずに元気で明るいみんなと共に頑張っていきます。

堀口 佳奈子 さん

看護師長

COVID-19感染拡大の中、当手術室ではソーシャルディスタンスを保ちながら勉強会を開催するなど、様々な工夫をしました。みんなで知恵を出し合う姿を見て、どのような環境でも前向きに適応していこうとする素晴らしい力を感じました。規制は緩和されつつありますが、しばらくはこのウイルスと闘っていかなくてはならないと思います。一緒に知恵を出し合って乗り越えていきましょう。



清水 華澄 さん

2年目看護師



Q. 周術期看護の魅力はなんですか。

A. 患者様に关わる時間は少ないですが、術後訪問に行くと「ありがとう」や「安心できました」などの言葉をいただきやりがいを感じます。

Q. 工夫していることを教えてください。

A. 患者様にとって手術は未知のことだらけで不安も大きいと思うので、不安や緊張に寄り添い、落ち着いた声で話しタッチングなどをおこなっています。日々勉強して手術に臨み、術後に振り返ることで、個別性のある看護ができるよう努力しています。長時間手術に耐えられるように体力づくりもしています。COVID-19感染対策として、標準予防策の徹底と日常生活でも人混みに行かないように気を付けていました。

Q. あなたを支えているのはどんなことですか。

A. 術後訪問の時に、患者様から「ありがとう」という言葉をいただくこと。うまくいかなかった時、先輩が私の気持ちに寄り添って、優しく励まし相談に乗ってくれたこと。同期看護師と共通の悩みや話題があること。家族が話を聞いてくれること。

Q. これからの抱負を教えてください。

A. これまで先輩にたくさん迷惑をかけましたが、大きな手術を1人でできるようになり、自分が成長したと感じます。これからは、整形外科の人工物や脳外科の手術に取り組み、周囲に気を配り行動することや、タイムマネジメントができるようになっていきたいです。

2022年度「看護の日」イベントレポート



埼玉県看護協会は、「看護の日」イベントとして5月9日に埼玉栄中学・高等学校の生徒350人を対象とした看護の出前授業を行いました。講師の日本赤十字看護大学さいたま看護学部の永井健太氏は、「保健師」「助産師」「看護師」について仕事の説明や、自身の体験から、「看護師は医師の指示に従うだけではなく、チームとして、病気を治したいという患者の気持ちに寄り添うことが大切」とお話しされました。生徒からは「看護職にもいろいろな職種があることに驚いた」「永井先生の体験談を聞いて、看護師はカッコイイ、素晴らしい仕事だと思う」「自分も誰かの助けになるような看護師になりたい」という言葉が多数聞かれました。

同日午後には、看護の仕事をもっとPRするためのラッピングバス(日本看護協会による企画)出発式が行われました。埼玉県内外を走行するラッピングバスは、埼玉県知事大野元裕様をはじめとした来賓の皆さまにご臨席いただく中、埼玉栄高校の吹奏楽部の演奏に送られて出発しました。



令和4年度広報委員会メンバーご紹介

ともに、つくる、「看護」をテーマに会員の皆様に広報誌をお届けいたします。

- 担当常務理事 … 吉永 智子
- 委員長 …… 佐々木 智子 ● 副委員長 …… 原 美保
- 委員 …… 朝穂美紀子 / 似内 明子 / 高橋 陽子 / 増田 康予
巻島 末季 / 澤田 良子 / 松井 洋子 (事務)



編集後記

人類は紀元前の昔から様々な感染症と戦ってきました。感染症のパンデミックは歴史を変えるほどの影響を与えます。皆さんも日常生活・職場の変化に対応してきたことでしょう。

前回の131号広報ではコロナ禍での病棟新人職員の1年の振り返りを紹介させていただきました。会員の皆様から看護師の活躍している場をもっと紹介してほしいとの意見があり132号では手術室配属の2年目・先輩看護師の話を伺いました。他施設での看護師の様子を少しでも感じ取っていただけたでしょうか。“Withコロナ”コロナ禍での皆さんの活躍にエールを送ります。

末筆になりますが、本号編集に際してご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

広報委員会

広報誌「さいたま」132号はいかがでしたか？アンケートで皆様の声を聞かせてください。奮ってご参加ください。

◆応募締切: 令和4年8月31日(水) まで

▼アンケート内容

- ① 興味をひかれた記事はありましたか。
- ② 今年の夏休みはどのように過ごされる予定ですか。
- ③ これから取り上げてほしい内容がありましたらお聞かせください。
- ④ 本号へのご意見、ご感想をお聞かせください。



回答はこちら